

滋賀

ペットボトルで痰吸引

在宅のお年寄りや患者 停電時も安心

高島 停電時もペットボトルを使った器具で痰吸引ができます。在宅のお年寄りや病気の勝野、武内美英子所長は、電動吸引器具が動かない時にはペットボトル器具で吸引してもらおうと準備を進めている。大きなスポイトで吸い出す要領で、武内所長は「各家庭で備えることが安心につながる」と話している。

【塚原和俊】

訪問看護ステーションが器具手作り

痰がのどにからみ自力で吐き出せないお年寄りには通常、電動吸引器具が使われる。必要時にチューブをのどに入れて機械で吸い出す。これに対しペットボトル器具は中央部がくびれたものをキャップを付けたまま使う。チューブを差し込む穴をキャップに開けて通すだけ。簡単な手作りだ。

ペットボトル吸引器具は東日本大震災後に往診医師が考案したとされる。武内所長が会

家族らに備えの勧め

長を務める県訪問看護ステーション連絡協議会が今年1月、加盟する67団体に配布した災害対策マニュアルで紹介され、県内でも広まりつつあるという。

高島市内の訪問看護利用者は124人。うち93人が電動ベッドは



ペットボトルを利用した手製の痰吸引器具を示す武内所長。左は通常使われる電動吸引器具。高島市の訪問看護ステーションで

じめ電気を必要とする器具を使用している。痰吸引が必要なのは11人。